

第4期第5回河内長野市市民公益活動支援・協働促進懇談会会議報告

日 時：平成23年6月3日（金）

午後2：00～4：30

会 場：市役所 501会議室

日 時：平成23年6月3日（金） 2：00～4：30

会 場：市役所501会議室

出席委員：久、常石、土橋、堀、望月、芝本、山崎、松岡、村上

事務局：市民協働室：内見、加山、松浦、浦、緒方

1. 平成22年度の事業報告について

※ 資料1に基づき事務局説明

会 長：ありがとうございます。いかがでしょうか。ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

委 員：後で出てくるのかもわかりませんが、市民公益活動支援基金ですね。この基金の大まかな趣旨というのか規模もわからないんですけど。

事務局：これはですね、すいません。ここに入れさせていただいてないし、後の資料にもここまでは付けさせていただいてないんですけども、22年度一年間でですね、確か5件27万円だったと思います。

委 員：雑収入ですか？

事務局：寄附額としてです。基金というのは、寄附をプールするところがございますから、5件27万円の寄附が一年間でありましたということです。合計27万円の寄附と、市からのマッチング方式を取っていますので、市から12月分までの合計が22万円でしたので、22万円分をマッチングということで市のほうからその基金に入れております。利息が若干3千円ほど入って、合計ですけれども49万円余りが歳入として入っています。歳出ですけれども、最終的に、年度で29万円を支援活動にさせていただくということになります。

会 長：まだ、あまり活動団体からの補助金の応募がないので、ぎりぎり回れていますけれども。市民の方々から出していただかないと市のほうからは出せないとおっしゃっていますので、まずは市民の方からお金を願いますということですね。

委 員：昨年度から職員の皆さんの研修、市民公益事業の参加意識と言いますか、一年間いろいろやっておられて、職員の皆さん方の受け取り方と言いますかね、意欲とかはどのように感じておられますでしょうか。

事務局：まず、職員研修というのは計4回させていただいてまして、それぞれが基本的には、研

修を受けたい方に受けていただいているところもありまして、正直な話、協働に熱心な職員につきましても、そのへんの学習はかなり進んできたかなというふうに思っています。ただ、それを裏返しますと、そうではない職員につきましても、研修を受けていないというケースもありますので、そのへんは少し課題かなと思っています。そのへんあたりですね、手を挙げる職員が少ない部分がございますので、今年は前回にお話させていただいた地域力UPサポート制度の中で、より全庁的に職員の育成を進めていこうということで、本年度は去年と比べると少し変わってくるかなというふうに思っております。

委員：職員の意識の向上というのも市民には伝わっていきますので、よろしくお願いします。

会長：ありがとうございます。る一ぷらざの評価が次の議案なので、ここでは行政に対してより効果的な意見を言うていくということだと思います。そのあたりのご意見がなければ、この調子でやってくださいということなのでしょうけれど。新しい事業を昨年度はいくつか立ち上げていただいておりますので、この進捗状況もみながら、一緒に頑張らせていただくということでよろしくお願いします。

2. 市民公益活動支援センターの評価方法について

※資料2に基づき事務局説明

会長：ありがとうございます。今日、資料をいただいておりますのでまたご覧いただいて、7月28日にヒアリングをして、意見交換で最終評価をしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。評価方法のところで、資料等で聞いておきたいことはありませんでしょうか。A委員は今度はヒアリングを受ける側ですが、この資料を見るにあたって、このあたり今年頑張ったのでよく読んでおいてくださいとか、何か言うておきたいことがありましたら言うていただきたらと思います。

委員：る一ぷらざにはこの4月から優秀な人材が増えたと聞いていますが。

A委員：この懇談会で皆さんから支援をいただいて実現しました。だからその点についてはすごく有難いと思っています。後は、彼と一緒にどんなふうなセンターを次につなげるセンターを生み出していくかというのが、そこは少し時間がかかるかもしれませんが、一緒につくって行けたらなあと思っています。

会長：それではまた、ゆっくり読んでいただいて、当日の評価をよろしくお願いします。

3. その他について

※資料3に基づいて事務局説明

会長：ありがとうございます。いかがでしょうか、ご質問ご意見ありませんか。

委員：長野小学校の協議会の準備会は、第一回目からの進捗状況を記録に残していますか。

事務局：はい、小学校準備会の報告の要約はさせていただいています。ただ、準備会は、地域の主体性を持ってやっていただいていますので、我々の関わる部分として、こういうお話をされた、こういう会議をされた、こういうふうな結果を提示されましたという、簡潔に言えるように報告書としてつくらせていただいています。

委員：うまくいきそうですか。

事務局：今の感触から言いますと、作業としてはほぼ煮詰まっています。これまで、地域としてどういう取り組みを今後して行ったらいいかといった大きなまちづくりの方向性も整備され、また、長野小学校区1万5千人の住民がおられるのですが、組織をどうするかたちにしたら一番皆さんが子どもも含めて顔の見える関係をつくっていいのか、そういう人たちに常に門戸を開いて参画できるような状態をどのようにしてつくって行ったらいいか、それを規約の中にも盛り込んで、ほぼ出来上がりつつあります。

会長：そのお話で、今までの自治会活動と違うのは、今までの自治会活動というのは、自治会員向けというのが建前でしたけれど、協議会になってくると、会員はすべての住民ということになりますので、そこをどうするかたちで声を掛けながらいろんな方にお伝えできるかというところがポイントになると思うんですが。そのあたり何か、今、ご検討されているところなのでしょうか。

事務局：そうですね。今、最終的に関わっておられる団体が約30ぐらいとなっています。その30団体は地域で非常に活発に活動されている団体がほとんどなので、小さな活動をされている方、市民活動的なことをされている方を、今後いかに巻き込んでいくかという議論をしています。

会長：PRも兼ねて3番目のところにあるまちづくり講演会の件ですが、これまで、ずっと私が担当させていただいてたんですが、今回は京都造形芸術大学の山崎先生となっています。彼はまだ30代後半なんですけども、若手では非常にまちづくりで注目されている方です。先週の日曜日には「情熱大陸」という番組に出ていますし、コミュニティデザインという本も最近出されて好評となっています。これから活躍される先生に来ていただきますので、いろいろ話も面白いと思います。ここ数年、熱心にされているのは隠岐島にある海士町のまちおこしです。

委員：（市民と職員の）意見交換会の話で管理職の方をメインということでしたが、今までこういう関係で出席させてもらった中で、こんな言い方をしたら怒られるかもしれませんが、暇そうな職員さんが出て来ているのかなという印象を持っていました。間違っているかもしれませんが。実際に我々が活動をするなかで、いろんな市の職員と接しているんですけど、市民に対するキーマンのような肩書きで来てくれたら、いろいろ活発な意見交換ができるのかなと思っていました。こんなかたちで市から出てこられる方も、こういう形で出てくるのは、そういう意味でいいかなと感じました。

会 長：先ほどの暇そうな人というのはどういうところに。

事務局：行政側の言い訳するわけじゃありませんが、我々が若いときは、非常に地域の人と関わった時代なんです。箱物行政と言ったら悪いですけども、地域に行っているいろんなものを仕掛けてくことが出来たお金のあった時代でした。今はそういう時代でない中で、今の職員の気質というのは、どうしても事務的に物事をするっていうのが基本となっています。協働、まちづくりの一番のポイントは行政の職員がいかに関係の人と顔の見える関係を作って、どれだけ行動力を持って行政がやっていけるかということで、このような職員を育てたいという狙いなんです。でもおっしゃる通り、今の職員が皆さんのような、非常に日頃から活発に地域で活動、活躍されている方に対して圧倒されるんです。逆に言ったら、圧倒されてる職員が、どうしても活発に活動されてる側から見ると、なんかおとなしいとかね、あまりものを言わないなっていうように見られがちになってしまってるかもしれません。

委 員：表現が間違っているかもしれませんが、こういうお話しをさせてもらってるような方がお見受けしないのでね、全般的に。私も一部の職員の方しか存じ上げませんから間違ってるかもしれませんが。もうちょっと第一線の方に出てきて欲しいと思っています。

会 長：そのあたりは意見交換会の目的をどう考えるかなんですけども、普段顔を併せてる方というのは、もう既にコネクションがあるわけですよね。だからそれはそれとして、いろいろ場面場面で話し合いをしていただいたらと思うんですね。意見交換会というのは、そうでない。例えば、普段あまり市民団体や市民の方々と接していない方々も含めて、参加をしていただいて、これから自分が協働の場面に直面したときに、どういうかたちで市民の方々とコミュニケーションを取っていったらいいのかということを研修する場所だと思っていますので。ですから、普段顔を合わせてない方に来ていただいている方がひよっとするとこの目的、趣旨にはぴったりしているのかなと思います。

事務局：今回の意見交換会は、基本的に庁内誰でも良いとはしてありますが、先程お話しさせていただいたように、地域力UPサポート制度の一環としての研修と位置づけていますので、庁舎内でこれから管理職として活躍が期待されている職員を中心に勉強していただくという趣旨があるんです。私どもでは主幹級と言ってるんですけど。管理職になって間がない職員が、今のうちに地域を知った上で課長になってほしいということもありまして、そういった意味では、先程、会長がおっしゃったとおり、主幹級ではあるんだけど、地域に出ている主幹級もいれば、地域とは全然関わらない部署の主幹級もいてるんです。いろんな主幹級の方がこの意見交換会に来ますから、年は割と似てるんだけど良く見る顔と見たことがない顔とが並ぶことになります。ですから、今までとは少し違う意見交換会になるのではないかなと思います。

会 長：先程ちらっとお話ししましたように、いろんな方々が協働の場面を経験するようになりますけれども、情報提供も兼ねて他市のお話をさせていただきたいと思っています。兵庫県伊丹市

で2年程前に総合計画を作り直したときに、市民の方々の市民会議にワークショップ形式で出させていただいたんですが、その時にせっかくの機会だからということで、20代の職員さんを中心に手を挙げていただいて、市民の方々と一緒に考える職員を募集したんですね。7名ぐらいに来ていただいて、そのテーブルの中に入ってやっていただいたんですが、当初は、距離感のはかりかたというのはすごく試行錯誤しておられました。どういうことかと言いますと、若手ですからいろんなことができるんですね。例えば、会議の取りまとめとか、あるいは広報紙とかいろんなことができるんですが、あまり職員がかぶってしまいますと、市民の方々が主体的に関わっていただけない。しかし、市民の方々にお任せした時にお忙しい方もおられてなかなか作業が全てできない。どのタイミングでどこまで職員の方が手を出してさしあげれば主体性を損なわずにお手伝いができるのか、ということかたちで、すごく最初は押したり引いたりということをされていました。そういう経験の中でタイミングや関わり方、距離感を学んでいってくださったのではないかなと思うんですね。そこがこれからまた河内長野の意見交換会等含めて、経験をどんどん積み重ねていただけたらと思います。今まではどちらかと言うと、お互いが抱え込んで主従の関係になってしまったわけですけど、そうではなくて、これからは対等ということになるわけですね。対等なということは、どういう距離感の取り方をすれば対等になるのかどうかとか、そのあたりが試行錯誤を繰り返しながらお互いが市職員と地域の市民の方々との関係をつくりあげていくというプロセスが、これからますます重要になってくると思いますので、そのこのひとつのきっかけづくりが意見交換会かなと思います。他いかがでしょうか。

委員：5月27日の（協働事業提案制度の）説明会はどうでしたか。これは、る一ふらぎでやったんですか。

事務局：場所はる一ふらぎだったと思います。

委員：何名ぐらい。

事務局：今年は去年ほど多くなくて、10名ぐらいだったと思います。

委員：出られた方が10名ぐらいだったんですか。

事務局：はい、10数名というところだと思います。去年は初めての制度だったので説明会ももっと多くの方が参加されたんですが。

委員：今回は、実際に手をあげてみようという団体が来られていますね。る一ふらぎとしては、思いのあるところに声を掛けて、話を進めているところもあります。将来は考えているけれども、今年度は見合わすという団体が多いと感じます。

委員：徐々には浸透していつてるんですね。

委員：そうですね。ただ、まだまだ協働事業提案制度の事業を、団体さんも目の前に見てないの

でね、ある意味、書かれたものだけで、実感がまだないというのがあるんですね。だからそういう意味では、あの制度を理解していただくという検討は進めていかないといけないと思ってるんですけど。ただ、形が見えてきだすと、じゃあ私たちもそれが出来る、という団体になっていただくように持って行きたいと思ってるんです。もうひとつは、行政提案の提案事業に関して手を挙げていただく方法がなかなかうまくいかなくて。1件は成立しそうなんですけど、あと2件については難しいです。行政提案自体がもっと皆さんに分かると、団体がやりたいこと引かかかっていくのだと思います。

会 長：河内長野は去年成立2件しましたけども。尼崎が3年目を迎えるんですけれども、3年間で、手は10件近く挙がってるんですが、成立したのが1件だけなんです。それはなぜかと言うと、市民活動助成なのか、協働事業なのかはっきり仕分けがされてないんですね。私なんかアドバイスさせてもらうのは、例えば、行政に何を求めているのかによって協働なのか市民活動助成なのかというのが見えてきます。自分たちが何をしたいかというよりも相手、つまり、行政に何を求めているのかによって判断できますよ、という話をするんですね。例えば、これは市民活動助成じゃないですかというように判断させてもらうときは、市役所が、例えば、広報を手伝ってくださいというようなことであれば、これはほとんど団体がする事業でサポートを市がするということになりますよね。先程言ったように、対等な関係というのが協働ですから、市役所の方々にも一定の仕事をしてもらわないといけないということなんです。どんな仕事をしてもらうのかちゃんと書いてもらわないと協働事業にはならないわけですね。そこがまだまだ自分たちがしたいことだけ書かれていて、じゃあ市役所に何をしてもらいたいですかという話になると、広報とか、そういう話になっちゃうので、それだったら市民活動助成じゃないですか、と言わざるをえないんですね。

委 員：よろしいですか。まちづくり市民講座というのを、私は1期の時に受けてそれがとっても良かったんです。2期はあったんでしょうかね。せっかく市民講座でいろんなことを教えてもらったので、私たちは1期のあと同窓会をつくらうということでやってるんですが、講座が終わった後の手続きを見ていると、市は私たちに何を求めていたかよくわからない。ただいろんな情報とか知識を入れてもらっただけで、それで完結すればいいものなのか。私たちのように、その後これではってことで小さい組織でやっていますが、行政はそのへんどうなんでしょうか。行政からの募集して行った取り組みですので・・・。

会 長：それはですね、尼崎市ではいろんな協働事業の検証会議をやるんですけど、この前出てきたのが歴史講座のあと、歴史語り部ボランティアが出来て、その事務局を教育委員会の方がされてるんですけれども、我々評価委員が申し上げたのは、この講座の卒業生がボランティアになって、観光客の方が来られたときに活躍してもらおうストーリーはわかるんですけども、この事務局が教育委員会になるということは、最初からそういうストーリーだったんでしょうかと質問させてもらったんですね。と言うのは、この市民講座も同じなんですけれども、いくつかのシナリオ、ストーリーというのがあります。まず集まっていた知識をつけて、それはあくまできっかけづくりであって、次の年からは自分たちで活動団体をつくっていただいて頑張ってください、というようなストーリーの書き方もあり

ますし、しばらくは団体育成のためにお手伝いしましょうというシナリオもありますし、ずっと生涯学習課が事務局となってやるべき手もありますし、いろんな関係性の作り方がありますね。そこを今どういうかたちで始められたのかということがはっきりしませんと、こんなやり方が良いとか悪いとかという評価がしづらいです。おそらく私は一番目を目指してるんじゃないかなという推測はするんですけどね。

事務局：実は、このまちづくり市民講座が始まったのが2年前、ちょうど委員が受講された時が初回だったんですね。その時は、実施主体が生涯学習推進室という市長部局でやっていたんです。その時にはまさに志としては、先程会長がおっしゃっておられたとおり、一番のことを目指して実際に学び、学んだ技術を地域とか社会に活かしていくことを重点において、る一ぷらざのセンター長も入りながら、組織化していったらいいなど。それも生涯学習課がするよりもる一ぷらざが支援していくという仕組みでスタートしたわけなんです。ところが、残念ながら機構改革がありまして、今実はその仕事は教育委員会がすることになったんです。そうなりますと、教育委員会のノウハウのことがあるんですが、他にもいろんな講座がありますので、一足飛びにそのやり方がどうも浸透できなくて、今ちょうど3年目、今年やっぱり生涯学習によるまちづくりの方、地域や社会に返していく部分について大事にしないといけないのでということで、方向性としては、る一ぷらざも含めて、学んだ人にどう活躍してもらおうところをもう一回一からきっちり議論しましょうという流れにはなってきました。ということなので、委員がされてた頃と今は環境も違うし講座の方式も違うんです。前は1期生というかたちでメンバーが仲良くなる仕組みだったのが、今は講座を受けるとポイントがもらえる、それを手帳に増やしていくという制度に少し変わったんです。仲間意識が持ちにくくなってるような中で、先程の一番最初のグループ化がしにくい状況にはなってきたけども、それでも何か活躍してもらおう方法を考えていかないといけないねということで今協議をしつつあるという状況であります。

会長：ちなみに3年ほど前から堺の南区が同じように講座を開催してるんですけどね。そこで私、事務局の方といろいろお話をさせてもらって一緒に打ち合わせをさせてもらったんですけども、新しく団体を作るのもいいんですけども、もう既に地域の中には自治会等で様々な活動をされてる方がおられて、その方々が人手を欲しがってるわけですから、そういうところに繋いでいったほうがいいんじゃないかというようなことですね。お住まいの地域の団体をご紹介して、地域活動のほうをお手伝いしてくださいというようなかたちにさせてもらってる。そんな戦略もあるんですね。

事務局：確か、る一ぷらざの関わり方も同窓会というかたちで、そういう関わりはしてもらってるけれども、センター長はそれが全てではなくて、要は、その方の興味とかによっては、地域とか団体に繋ぐという役割も、たぶん意識して動いてくださってると思います。

会長：生涯学習でいろいろお世話することもあるんですけども、この前、三木市の事務局と話をしてて、ちょうど大学の仕組みとよく似ているんじゃないかと。市民大学ということでなぞらえれば、どのようにさせてもらったかと言うと、我々、大学で大学生を教えますね。4年生になってくると、就職先を斡旋するわけですね。だとすると、講座の担当者がどこ

か団体を斡旋していかないといけないので、就職活動をお手伝いすると。そういうふうなやり方もあるんじゃないですかということですね。キャリアセンターがおそらく一ふらぎで、一ふらぎに行っていて、こんな団体がありますよ、こういう地域にはこういうことをされてますよ、どこなら入れますかという繋ぎ方も考えられるんじゃないかなと思いました。

委員：1期の方というのは、それから後、いろいろな活動に参加されてる方が多いんです。会長が言われた地域活動を含めてね。センターに来てくださる方、団体に入られてる方とかが本当に多いんです。2回目とは明らかに違います。

委員：1期はそういう意味では、離れがたいという、そういうかたちになっていったので。

会長：理想的には1期、2期、3期ではなくて、みんな卒業生がひとつになっていただくのが一番いいと思います。

委員：2期の時に、それこそアピールに行きたいという申し出をしたんですが、こちらから断られました。そういう時間はないということで。もっと繋がっていくと良いかなと。

会長：ちょっと雑談話になってしまいますけれども、私もいろんなところをお手伝いしてきてね、1期、2期、3期と続いていきますでしょ、そうすると上下関係ができてしまうんです。先輩後輩の関係ですと、下の方が居ずらくなって、スピアウトして別の会をつくらたりするというパターンも他市ではあります。人間関係ですから非常に面白いと言ったら怒られるかもしれませんが様々なパターンがあります。そのあたりせつかく人材がそこでたくさん育っているわけですから、その方々が実際にしたいことが具体的にどう貢献できるかという繋ぎがもうちょっとあったらなあと思います。また担当の方や自治会の方にこの場所というのは、市民協働推進室が担当してる事業だけではなくて、市全体の協働に対する在り方を検討したり、ご提案を提供させていただく場でもありますのでね。今日ご説明していただいた内容以外にお気づきになったこと、もうちょっとこういう形で管理職の方に動いてもらったら協働がかなり進むんじゃないかなというご意見ありましたら是非ともどんどん出していただければと思います。いかがですか。そしたら、またこのように進捗状況を懇談会のたびに随時報告してください。

事務局：＜東日本大震災にかかる市の支援状況についての情報提供＞

会長：阪神淡路大震災から16年が経ちましたけれども、阪神淡路の経験からボランティアの在り方とか支援の仕方は積みあがってきていますので、今回は、そういう意味では混乱なく支援ができてるのかなと思います。この前も大学生が、夏休みになったらボランティアに行きたいんですけど、という相談を受けたんですが、まだ彼らにしっかりと情報が流れていないなと思いました。例えば、どんな質問を受けたかと言いますと、あまり長い間行けないんですけども、どれぐらいの日にちでないとだめですかということを知っていました。どうしたらいいですかと言うので、住んでいるところの市の社会福祉協議会なり、先方の

社会福祉協議会に連絡をすれば、どこどこに行ってくださいという指示があるはずですから、そういうことで情報を得て動いたらどうですかというアドバイスをさせてもらったんですが、たまたま私がそういう経験を持っているのでアドバイスが出来るんですけども、まだまだたくさんの大学があって、うまく学生に情報が伝わりきれてないところがあるんじゃないかなと、もったいないなという気がしますので、大学に向かってのメッセージも必要ではないかと思います。なかなか大学の先生も社会福祉協議会がそういう窓口になっているということをご存知ない方が多いですね。だから自分で抱えるのではなく、社会福祉協議会を紹介をするだけで良いことが多いのですが、大学の先生でさえ、と言ったら申し訳ないですけど、社会福祉協議会の役割をご存じない方がたくさんいるなと感じます。

委員：今の事務局の報告で、プロジェクターで足りるんじゃないかと。私は過去4回この会議に出席させていただいてるんですけども、正直紙が非常に多いんですよ。紙が多いということはそれだけ資料を管理することが多くなるんじゃないかと。たかが紙なのですが、紙を作るためにはそれだけの労力があるということを考えていただかないと。今日の資料も、少なくとも半分くらいでいいんじゃないかなという気がするんです。まだ4回でよくわからないところもあるんですけど、役所の機構改革というか、そういう意味ではいかがでしょうか。

事務局：わかりました。

会長：紙はいらないという方もいれば、紙がないとダメだという人もおられると思うので、なかなか難しいところですね。

委員：しかし癖のものというのもあると思うんでね。私は家に帰ったらもう一回見る事はないと思います。紙がないということは一生懸命頭に入れようとする努力もするんです。

事務局：そうですね。その辺はいい提案をいただきましたので・・・。

会長：お一人の意見だと困りますので・・・皆さんそういう方向でよろしいですか。

委員：私は紙派でね。その意見もわかるんですけども、会議を聞こうと思うと、資料があるとほとんど記録しなくてもいいわけですよ。筆記というか、きちんと書き留めたいと思ったら注意がいてお話もゆっくり聞けないとかいうのがあって。私はこういうふうに、資料があって、それに説明いただくほうが有難い。

委員：あるなしの問題ではなくて、必要以上の記載とかという意味なんです。

委員：内容についてはいろいろあるかもしれないですが、資料があるほうが助かります。

会長：その他案件の報告事項はいらないかもしれないです。後の資料というのはしっかりと、そのあたり臨機応変に考えていただくということで。

委員：残すということは非常に重要だね。私も会社勤めが長かったんですけど、この紙をここだけでなく他で使われることがあれば極めて有効だと思います。他のメンバーにお伝えしていくときには書いてもらってると助かります。個人的な要望です。感覚だと思いますので、会長がおしゃられたように臨機応変に。

会長：ちなみに私どもの学部はどうしてるかと言いますと、学部の会合は全部ペーパーレスです。今、庁内のネットワークがありますので、そこにデータベースがあってそこに全部次の会議の資料が入ってるんです。インターネットが苦手な業務に紙が欲しいという人は自分でプリントアウトして持ってくる。私なんかは、パソコンの中で見れるようにしています。そうしますと、総勢45名の教員の方の資料の数が減るだけでなく、事務職員の仕事がぐっと軽減されるんですね。

事務局：非常に難しいですね。ペーパーレスをはかっているのは間違いないですので、そこは精査させてもらいます。

会長：それでは他、全体的にどうでしょうか。

委員：〈ボランティア体験プログラムのチラシの説明〉

委員：以前一ふらぎにお伺いした時、申し込みの初日に電話がなりっぱなしというのがありましたでしょう。今回も同じですか。

委員：そうですね。今回はそのあたりを発信する時に、「初日に電話がかかりにくい」ことを周知しようと思います。

委員：それしか方法がないんですか。

委員：ただ受付方法は迅速になってますので、訓練をしたくらいに受付の方向は年々改善しています。ですから、言われた方、申し込みは番号を言っていたら、番号のところの受付台帳というふうにしてますので、受付者は、手際が良いものだけが行っています。電話対応は、喋るんじゃなくてきちっと受付業務を正しく受け付けることだけに徹してほしいと言ってるんです。今年はその辺も改善されていくのかなと思っています。困るくらい電話がかかってくるので初日は大変です。

会長：うれしい悲鳴ですよ。ちょっと、こういうやり方もあるんじゃないかなというのはありますか、例えば、それぞれの講座で少しずつ時間帯をずらすという手もないことはないですね。例えば、初日ですけど9時から10時までは10番目まで、11時までは20番までとか。

委員：なるほど。

委員：葉書ではダメなんですか。

委員：葉書にすると出ないという方がおられるんですよ。往復葉書になったりするとなおさらです。難しいところです。

本当に人気のある講座は、9時にセンターが始まってすぐに電話を取るようにしてるんですけど、もう10時には満杯になってしまうところがあったり。そういうところには今年度定員を増やしてくださいということで、その中身も改善してはきてるんです。

会長：ありがとうございました。他に何かありますか。

委員：〈社会福祉協議会からボランティアバスの運行のお知らせ〉

会長：年齢の制限はあるのですか？

委員：広報では50歳までの方ということで制限させていただきました。前は大学生の方もいらっやいましたし、まんべんなく20代、30代、40代の方が参加されました。

会長：今回、特に体力勝負のところがありますね。行くのも長距離で体力を要するので50歳くらいが妥当かなという感じですね。

委員：第1回のバスで行かれた方の中に、知り合いの学生さんが参加されてたんです。この方、帰ってきてからお話を聞いたんですが、個人的には非常に感激して帰ってきて、向こうで子どもさんとお話したときにここ何年間は泣いたことなかった。涙をもらったと感激して話をしてましたので、それは良かったねというふうに言ってあげました。

委員：そうですね。私も行かせていただいたんですけど、なかなかいいものです。

会長：今は落ち着いていますけれども、当初は大変な状況であったので、あるNPOさんなんかは、ボランティアが帰ってからのメンタルケアのための講座をやってらっやいましたね。心理的なストレスが増えて帰ってこられる方がおられましたのでね。

委員：消防署の方で落ち込んでしまってどうしようもない方もおられるとの事です。自衛隊とかも心配ですね。

会長：ありがとうございます。案件すべて終わらせていただきましたので終了させていただきます。

※次回、懇談会（7月28日）の開催場所はるーぷらぎに決定された。